

## 令和元年度 S P O D 事業評価委員会委員による評価結果及び今後の対応について（案）

### ■令和元年度事業評価委員会委員による評価について

「令和元年度 S P O D 事業の評価について」

#### 【趣旨】

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（S P O D）」の事業運営に対し、令和元年度 S P O D 実績報告書や令和元年度中に実施した視察等をもとに、各 S P O D 事業評価委員会委員から個別の内容について書面で意見をいただき、今後の事業推進に役立てる。

### ■令和元年度事業評価委員会からの指摘事項のポイント（案）

#### 1. FD

##### 【指摘事項】

SD に比べると、FD に関する情報発信や成果検証が少ない。FD についても情報発信につとめていただきたい。また、外部団体から認証を受けるなど、その質を広く知ってもらうことも検討していただきたい。

##### 【対応】

**【対応済予定】** 令和元年度の大学教育学会において、新任教員研修後のフォローアップアンケートに基づく FD の効果検証について発表を行った。さらに、SPOD で実施する新任教員研修について、研修のさらなる質向上、及び SPOD 内外に対して質が保証された研修であることを発信していくために、日本高等教育開発協会(JAED)の認証を受けるべく準備を進めており、早ければ2020年度内に認証を受ける予定である。

##### 【指摘事項】

コア校間で標準化された5つのプログラム(授業設計やシラバスの作成法など)において、2019年度は加盟校14校59名の教員が参加(全員が「満足」と回答)しており、プログラムへの高い評価が示されている。特に、人材のバリエーションが豊富とは言い難い地方私大においては、ことさらに実施が困難なプログラムであり、四国のみならず中国地方にも広く展開する事が望まれる。

##### 【対応】

**【対応済】**本新任教員研修は各コア校が主催するプログラムのどれを受講しても同様の効果を得られるよう、SPOD内でプログラムを標準化しており、加盟校外からの参加も可能としている。実際に、令和元年度には九州地方の2大学から参加があるなど、私立大学を含める加盟校外の認知度も高まっている。今後、この取り組みをさらに広めるための情報発信等を検討していく。

#### 2. SD

##### 【指摘事項】

SD 専門部会が、大学行政管理学会において成果検証に関わる発表を行ったことは高く評価される。このようにエビデンスベースで議論を進めるカルチャーを醸成していくことに意味がある。この点で、次世代リーダー研修の成果については、SPOD内だけではなく、学会発表を行うなどして、広く情報を発信すべきである。というのも、これだけの研修が行われていることに対する認知度はさほど高くない。実施例ではなく、成果であるレポート集をもっと発信できる方法を考

えると良いのではないか。

#### 【対応】

【対応済】毎年度、研修修了時に「次世代リーダー養成ゼミナールプロジェクト実践ジャーナル」を作成しており、昨年度末には第9号を発刊しSPODホームページへの掲載を行った。また、平成27年度から毎年、大学行政管理学会において次世代リーダー養成ゼミナールの多様な実践事例とその成果を担当講師（教職）、修了生自らが協働で継続して発表してきた。特に、令和元年度は、修了生が職務においてどのようにリーダーシップを発揮しているのかについて、同ゼミナール担当講師と事務局職員が成果検証に関わる発表を行ったが、今年度はさらなる分析を行うとともに、「大学教育実践ジャーナル（愛媛大学教育・学生支援機構）」への投稿を予定しており、今後も講師、事務局、修了生自らが、更なる情報発信の拡大に向けて検討を続ける。

### 3. SPOD フォーラム

#### 【指摘事項】

全体アンケート集計結果（規模別）によると、大学規模1,000名未満の86%がSPOD加盟校からの参加であるが、これら規模の小さな大学のSPODフォーラムに対する全体的な満足度が規模の大きな大学に比べると低くなっている。この点について、掘り下げた検証を行うと、規模の小さな私立大学におけるSPODの課題が浮き彫りになるのではないか。

#### 【対応】

【対応予定】アンケートをSPOD加盟校内外で比較したところ、加盟校外の参加者の方が「SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった」や「業務や教育に積極的に取り組んでいきたいと思うようになった」といった項目に対し、「そう思う」と回答した割合が高いことが分かった。大学規模1,000名未満の参加者はSPOD加盟校内が大半を占めているため、満足度が比較的低いという結果となったものと思われる。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた満足度としては、大学の規模やSPOD加盟校内外による違いは見られないものの、加盟校内の教職員の満足度をより高めるため、アンケート等を基に見直しを行っていく。

#### 【指摘事項】

SPODフォーラムは基本的に大学教職員の集まりではあるが、例えば、（内容に応じて）ポスターセッションや、（企画に応じて）情報交換会の場に、何がしかの形で教育の受け手である学生が参画すると盛り上がるのではないか。

#### 【対応】

【課題】SPODフォーラムは教職員の能力開発のためのものであり、FDプログラムコンテンツ内には学生に非公開の内容もあることや、学生にヒットするプログラムを作成するとなるとSPOD（フォーラム）の方向性から離れていくのではないかという懸念がある。一方で、新たな視点を加えるという観点から、将来教職員になる意思がある学生や修士・博士の学生に限って参加を認めることや、陪席として参加を認めること等、教職員の受講希望者がこれまで通り参加でき、かつ受講者の裾野をさらに広げられる方法を引き続き検討していく。

#### 【指摘事項】

ニーズの少ない科目の統廃合等、より良いプログラム構成やそれに基づくコスト（人件費）の問題が挙げられる。

#### 【対応】

【対応済】SPODフォーラムでは、毎年参加者へのアンケートを実施し、希望するプログラムについて意見を募っている。それに基づき新規プログラムの開講や、ニーズの高いプログラムについては複数年での連続開講を試みるなど、より良いプログラム構成となるよう検討を行っている。

#### 4. 組織運営

##### 【指摘事項】

これまでの10周年の歩みを記録して書籍にするなど、レガシー継承のための取組みにも着手してはどうか。毎回の報告書をベースにして記述すれば、あまり負荷をかけずに刊行できるようなも思う。

##### 【対応】

【対応済】今年度は新型コロナウイルス感染対策のため、組織的な活動に大きな制約があり、緊急の対応を優先する。なお2018年度に発足後の10年間を振り返った情報提供をした。

小林直人：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）～10年間の活動と課題～  
IDE現代の高等教育，2018年11月号，No. 605:51-55，2018

##### 【指摘事項】

四国という地域を意識した活動がさらに展開できるとよい。より一層の社学連携を強化していく必要がある。大学関係者と地元産業界あるいは地元高校教員との交流の場を四国レベルで創ったり、SPODフォーラムのシンポのパネリストにも企業人や高校教員を招聘するなどもアイデアかと思う。

##### 【対応】

【対応予定】教育・研究等により地域の発展に貢献するために、社学連携をさらに推進する意義は大きく、様々な方策を引き続き検討していく。それを担う人材育成の取組の一つとして、「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修」における中堅職員を対象としたレベルⅡでは、研修科目「高等教育論」において「2033年の四国の高等教育機関」をテーマの1つとして取り上げ、高等教育の歴史や現状を学んだ上で将来像について考える機会を設けた。今後も、10年、20年先を見据え、政策動向に即応できる職員を育成するためにプログラムを順次改良していく。

##### 【指摘事項】

発展し巨大化する組織、プログラムの運営について、安定した財政基盤について負担金収入拡大、補助金収入拡大などの取り組みが必要であると考えている。

##### 【対応】

【対応済】現在は各大学が連携し、加盟校の教職員が本務として協力的に取り組んでいることにより、少ない経費で安定した運営ができています。また、おおよその収入が確定するのはSPODフォーラム終了時であるが、SPODフォーラムが中止になった場合にも運営できるようシミュレーションを行っており、実際に令和2年度の中止についても必要経費を再計算することにより運営上の支障は発生しない見込みとなっている。





## 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

### 令和2年度大学人・社会人としての 基礎力養成プログラム（新任職員） ～オンライン開催～



**日 時** / 令和2年11月4日（水）～6日（金）（詳細は別紙「日程表」のとおり）  
**実施方法** / オンライン（Zoom）  
**対 象** / 新任職員（平成31年4月2日～令和2年4月1日採用の職員）  
**主 催** / 愛媛大学、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

#### 全体目標

大学職員として必要な基礎知識と実践方法を習得することができる。

#### 研修目的

大学の職員として階層別に求められる知識や実践方法を習得することを目的とする。

#### 研修内容

大学人・社会人としての基礎力養成プログラムのうち、6つの研修科目を実施する。

大学職員の基礎知識	メンタルヘルスの基礎知識	コミュニケーション入門
ビジネスマナー入門	タイムマネジメント入門	危機管理入門

#### 到達目標

◆研修を修了した方には修了証書を発行します。

##### 【大学職員の基礎知識】

- ・高等教育機関を取り巻く環境について理解することができる
- ・これからの大学職員の役割や求められる能力について説明することができる

##### 【メンタルヘルスの基礎知識】

- ・メンタルヘルスの重要性について説明することができる
- ・自己のメンタルの状況を把握することができる

##### 【コミュニケーション入門】

- ・職場におけるコミュニケーションの必要性を説明することができる
- ・自身の考えを分かりやすく伝えることができる
- ・相手の意図を的確に汲み取ることができる

##### 【ビジネスマナー入門】

- ・社会人としての振る舞いをすることができる
- ・基本的な電話応対、来学者対応をすることができる
- ・報告・連絡・相談の重要性を説明し、実行することができる
- ・文書の役割と処理の基本を説明することができる
- ・文書作成時のポイント、伝達手段ごとの注意点を説明することができる
- ・処理の基本に沿って文書の作成等に取り組むことができる

##### 【タイムマネジメント入門】

- ・業務上の個人・係レベルのスケジュール計画・管理を行うことができる
- ・スケジュールの優先順位をつけることができる
- ・段取りの基本テクニックを習得し、日常業務への展開を図ることができる

##### 【危機管理入門】

- ・危機管理の基本について、説明することができる
- ・危機が発生した場合、先ず自分がとるべき行動について、理解し、実行することができる



昨年度の様子



講師の先生の経験をもとにしたエピソードが多く、興味深い内容でした。

職場に戻った時に、すぐ実践できる内容ばかりで、仕事へのモチベーションが上がりました。

## 受講者の声

各講義を受講して良かったことはなんですか？

### 大学職員の基礎知識

- ・高等教育を取り巻く現状等，知らない知識を身につけることができた。
- ・今後の大学職員として自身のあるべき姿を考えることができた。

### メンタルヘルスの基礎知識

- ・自分自身の心の状態を知ることができる良いきっかけになった。
- ・メンタルヘルスについて自己を知ることが大事だと思いました。



### コミュニケーション入門

- ・コミュニケーションの大切さに改めて気づけることがあった。
- ・自身の業務に直結するコミュニケーションの手法を学べた。

新任職員の皆さんをお待ちしています！

### ビジネスマナー入門

- ・文書作成スキルなど業務にすぐ活かせそうだと思いました。
- ・メールのBCCの使い方や，文書作成の仕方など，知らない事が知れたのはよかった。

### タイムマネジメント入門

- ・疑問に思っていたタイムスケジュールリングや考え方が理解できた。
- ・仕事のやりくりで困っていましたが，「タイムマネジメント入門」が解決の手がかりを教えてくださいました。

大学職員としてどうあるべきなのか，学べてよかった。プロフェッショナルな職員になれるように専門知識の習得を行っていきたい。

### 危機管理入門

- ・危機管理入門は初めて受講したため勉強になった。
- ・他大学で起こった事件・事故を自大学のことと捉える必要性を学べた。



昨年度の様子

## 担当講師

愛媛大学	教育・学生支援機構教育企画室	講師	竹中	喜一
愛媛大学	教育学生支援部	愛媛大学SD統括コーディネーター・能力開発室長	吉田	一恵
高知大学	法人企画課	IR・評価室 室長	濱田	昌代
徳島大学	技術支援部常三島技術部門地域協働グループ	技術専門職員	酒井	仁美
高知大学	法人企画課	IR・評価室 IR・評価係 主任	笹山	明伸
松山大学	短期大学事務部	短期大学事務室 主任	山田	悠起
徳島文理大学	学生部	学生支援課 事務職員	原	里沙

**令和2年度 徳島大学全学FD推進プログラム  
「授業設計ワークショップ」実施要項**

**1 目 的**

各大学における教育の質向上への課題が高まる中、実質的なFDの取り組みを進めるための全学FD推進プログラムとして、本ワークショップを毎年実施しています。このワークショップでは、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善を重視しています。また、授業について教員同士が学び合う場を提供する事で、教育の質向上のためのコミュニティ形成につながることを目的としています。

**2 目 標**

1. FD活動の理念、活動計画を理解することができる
2. 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得することができる
3. 授業研究の仕方を理解し、実践することができる
4. FD参加者同士の仲間づくりができる

**3 概 要**

このワークショップでは、主に授業設計と教育技術に関する理論と実践を学んでいきます。主な活動内容は、シラバスと授業計画の作成、模擬授業等です。体験を通して、授業の目的、到達目標の設定、授業実施の留意点、評価方法等について理解し、具体的な授業計画を立て、模擬授業を実施します。これらの活動を通してご自身の授業について考え、振り返ることで、実践的な教育力の向上を目指します。(ワークショップまでに、講義ビデオによる事前学習を行い、シラバスと授業計画書を事前に作成します。)

**4 実施日** 令和2年8月20日(木)・21日(金)

**5 実施場所** 常三島キャンパス フューチャーセンター, 教養教育4号館

**6 プログラム** 別紙2のとおり

**7 対 象 者**

- ・教育力開発コースの対象者
- ・学部等から推薦を受けた者(助教及び教授等)及び希望者
- ・令和元年度「授業設計ワークショップ」欠席者

※やむを得ない理由により受講できない教員については、所属の学部長名で理由書を提出し、次年度以降に受講する。

教育力開発コース<sup>注1</sup>は、助教から講師、准教授昇任後1年以内、または講師、准教授として新規採用後1年以内の教員(ただし、所属が病院、及びプロジェクト採用などの場合は除く。)を対象に実施している、徳島大学の新規採用・昇任者を対象としたFDプログラムであり、対象者は必ず受講することとされています。

**【研修の代替について】**

- ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が開講する新任教員研修プログラムを受講した場合のみ本ワークショップ受講の代替とする。

**8 参加費** 無料

**9 主 催** 徳島大学FD委員会  
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

## 注1 教育力開発コース

### (主旨・概要)

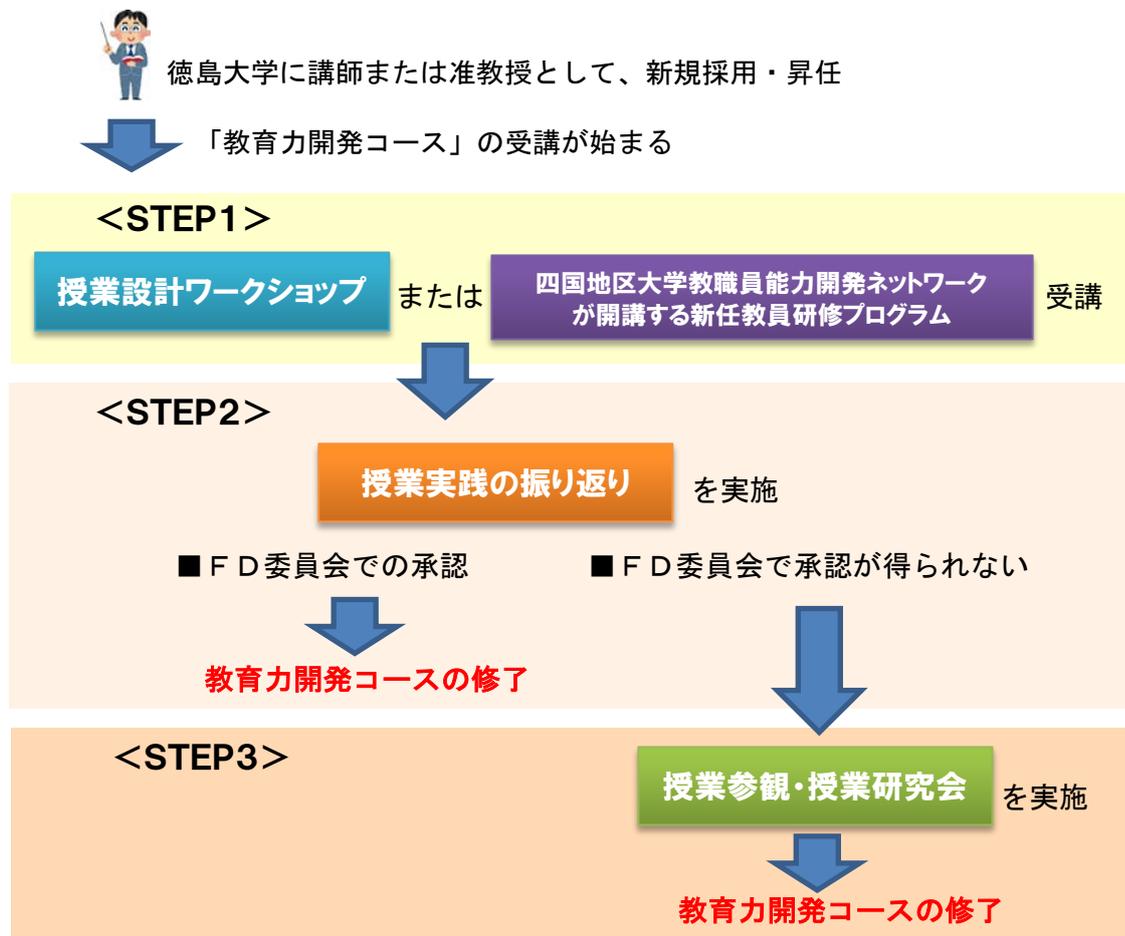
教育力開発コースは、授業設計、授業の実施・改善、教育活動を振り返り、自身の目標を明確にして今後につなげるといった一連のプロセスを支援するものです。徳島大学においてはこれらの教育活動を重視しており、学外より講師または准教授採用後1年以内の教員、及び、学内で助教から講師または准教授昇任後1年以内の教員を対象に実施しています。

### (内容)

4つのプログラム「1.授業設計ワークショップ」、「2.授業実践の振り返り」、「3.授業参観・授業研究会」、「4.ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」で構成されています。

このうち、「1.授業設計ワークショップ」、「2.授業実践の振り返り」は必ず受講することとされており、「2.授業実践の振り返り」において、授業設計、実施、評価、改善のプロセスが適切に実施されていることが全学のFD委員会において認められた場合に、教育力開発コースを修了することができます。認められない場合は、「3.授業参観・授業研究会」を実施します。さらに、これらのプログラムを受講後3年以内に、「4.ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を受講することが望ましいとしています。

図 新規採用・昇任から教育力開発コース修了までの流れ



※「授業実践の振り返り」については、以下のURLを参照してください。  
<https://www.tokushima-u.ac.jp/highedu/reform/fd/docs/19962.html>

## 授業設計ワークショップ日程（第1日目）

日時：令和2年8月20日（木）

場所：常三島キャンパス 地域創生国際交流会館 フューチャーセンター

時刻	内容	講師・担当者	備考
12:30-12:50	・受付（地域創生国際交流会館フューチャーセンター） ※12:45までにお集りください		11:00AM 徳島市に「大雨警報かつ暴風警報」または「洪水警報かつ暴風警報」が出ているら中止
12:50-13:30	(1) オリエンテーション ・はじめに（副学長より挨拶） ・大学教育改革の流れ ・教育の内部質保証方針 ・研修のねらいと意義	吉田 博（進行） 副学長(教育担当) 河村保彦 FD委員会委員長 齊藤隆仁	フューチャーセンター
13:30-13:50	(2) アイスブレイク「課題・目標設定」 ・参加者自己紹介・交流	塩川奈々美	フューチャーセンター
13:50-14:00	休憩		
14:00-15:00	(3) ワーク「授業設計の基本」 ・アクティブ・ラーニングの理論と効果 ・成績評価の意義・方法 ・学生の学習を促す授業方法	吉田 博 塩川奈々美	フューチャーセンター
15:00-15:10	休憩		
15:10-16:10	(4) ワーク「自身の教育理念」 ・授業で大切にしていること	吉田 博	フューチャーセンター
16:10-16:20	休憩		
16:20-17:45	(5) 講義・ワーク「授業計画」 ・シラバス・授業計画書の書き方 ・シラバス・授業計画書の修正 ・2日目の模擬授業の進め方について	塩川奈々美 スタッフ全員	フューチャーセンター
18:00-20:00	交流会（任意参加）	吉田 博	

※事前に「授業設計ワークショップ」の講義ビデオのうち、指定された講義を必ず視聴して下さい。当日はビデオによる学習を行っていることを前提に、参加者間でのグループワーク等を行います。

## 授業設計ワークショップ日程（第2日目）

日時：令和2年8月21日（金）

場所：常三島キャンパス 教養教育4号館 4-202教室他

（集合後、模擬授業を実施する教室へ移動します。）

時刻	内 容	講師・担当者	備考
9:00-9:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集合、模擬授業準備 (教材印刷が必要な場合は9:00 集合)</li> </ul>	スタッフ	集合：教養教育 4号館 4-202 教室
9:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>(6) 模擬授業実施（グループで実施）</li> <li>・ FD 委員紹介、流れの確認</li> <li>【模擬授業の流れ】(1人30分×4人(休憩適宜))</li> <li>・ シラバス・授業計画書等の紹介(5分)</li> <li>・ 模擬授業の実施(15分)</li> <li>・ 授業検討会(10分) →チェックリストをもとによかった点、改善点等を検討する。</li> </ul>	各班司会：FD 委員 ワーク支援： スタッフ全員	〈模擬授業実施手順〉 教室：各班グループ部 屋へ移動
12:00-13:00	休憩 各自で昼食		
13:00-13:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>(7) 模擬授業の振り返り</li> <li>・ 模擬授業検討会を受けて授業の改善点</li> <li>・ 今後のアクションプラン</li> </ul>	吉田 博	教養教育4号館 4-202 教室
13:40-14:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>(8) 教育力開発コース概要</li> <li>・ 教育力開発コースの意義・内容</li> </ul>	吉田 博	教養教育4号館 4-202 教室
14:10-14:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>(9) プログラムのまとめ</li> <li>・ 講評</li> <li>・ 修了証書授与</li> <li>・ アンケート</li> <li>・ おわりの言葉</li> </ul>	吉田 博(進行) 副学長(教育担当) 河村保彦 FD委員会副委員長 常山幸一	教養教育4号館 4-202 教室

## 高知大学新任教員FD研修 令和2年度

## 「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ（オンライン授業対応編）」実施要項

## 1. 主 催

高知大学 大学教育創造センター

## 2. 実施方法・日時

今年度はオンライン授業に対応した内容で、本研修も moodle による非同期型研修と Teams による同期型研修を併用しての開催といたします。

①非同期型研修：令和2年8月17日（月）～ 9月4日（金）

※moodle に教材を掲載しますので動画の公開期間中に各自で取り組んでいただきます。

②同期型研修：令和2年9月9日（水）10：00～17：00

①を受講のうえ、②の同期型研修にご参加ください。

## 3. 対象者

新任教員、新たに大学の授業を担当する教員、参加を希望する教員

※ 四国地区教職員能力開発ネットワーク(SPOD) 全加盟校

## 4. 定 員

40名

## 5. 講 師

高知大学 大学教育創造センター

塩崎 俊彦（センター長 教授）

杉田 郁代（准教授）

高畑 貴志（特任講師）

俣野 秀典（地域協働学部 講師／(兼)大学教育創造センター）

## 6. 目 的

学生の主体的な学びを引き出すオンライン授業を行うために必要となる知識や技術を体験的に学びます。

具体的には、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程について非同期型オンライン研修を通じて理解し、シラバスの作成からオンラインでの授業展開までを体験します。

## 7. 目 標

- (1)適切な授業の目的・目標設定ができる。
- (2)わかりやすいシラバスを書くことができる。
- (3)さまざまな授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる。
- (4)さまざまな成績評価の方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる。
- (5)学生の主体的な学びを取り入れたオンライン授業を導入できるようになる。

## 8. 研修形態

- (1)授業デザインやシラバスの書き方、公正な評価方法などについてミニ講義を通じて学びます。
- (2)異なる学部の教員が、普段着で肩書きなしの対等な意見交換をすることで、学習効果を高めます。
- (3)アクティブ・ラーニングの手法を体験しながら、学びます。

## 9. 研修プログラム

### ①非同期型研修

moodle によるオンライン研修を受講していただきます。

オンライン研修1：目標設定と授業計画、シラバスの書き方

オンライン研修2：コースデザインの考え方

オンライン研修3：様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット

オンライン研修4：成績評価、その目的と方法

研修課題（詳細はお申込みの後、ご連絡いたします）

1. 自分が担当するオンライン授業のシラバスを作成する。
2. 1の授業の1回分のオンライン授業を作る。
3. 2で作成した内容を高知大学 moodle に登録する

### ②同期型研修

Teams による同期型オンライン授業を経験します。

- ・アイスブレイク
- ・作成した授業に関するプレゼンテーション
- ・オフラインでのブラッシュアップとフィードバック
- ・意見交換／振り返り

## 10. その他

- (1)Teams の設定については事前にお知らせします。
- (2)修了証書は、全課程（非同期型研修・同期型研修）の受講を完了された方の方に授与されますので、予めご了承ください。

## 11. 申込方法

令和2年8月5日（水）までに下記事項を記載のうえ、E-mailにてお申し込みください。

メール件名：「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」の参加申込み

本文：(1)氏名（ふりがな）(2)所属 (3)職名 (4)メールアドレス (5)電話番号

申込先：学務課総務係（[y-spod@kochi-u.ac.jp](mailto:y-spod@kochi-u.ac.jp)）

## 12. 本件に関するお問い合わせ先

高知大学学務課総務係（SPOD 担当）有澤、吉岡、矢野

TEL：088-844-8144 FAX：088-844-8367

E-mail：[y-spod@kochi-u.ac.jp](mailto:y-spod@kochi-u.ac.jp)

## 13. 参考資料

佐藤浩章編『大学教員のための授業方法とデザイン』玉川大学出版部

高知大学 大学教育創造センター作成『FDハンドブック Tips 集1～6、9』

大学教育創造センターのHPに掲載しています。

【URL】<http://www.kochi-u.ac.jp/daikyo/publication/index.html>

# 学生の学びを支援する 授業準備ワークショップ

(オンライン授業対応編)



今年度はオンライン授業に対応した内容で、本研修もmoodleによる非同期型研修とTeamsによる同期型研修を併用しての開催といたします。

## ①非同期型研修：8月17日(月)～9月4日(金)

※moodleに教材を掲載しますので動画の公開期間中に各自で取り組んでいただきます。

## ②同期型研修：9月9日(水)10:00～17:00

※Teamsの設定については事前にお知らせします。

講師：塩崎 俊彦、杉田 郁代、高畑 貴志(大学教育創造センター)

俣野 秀典(地域協働学部 講師/(兼)大学教育創造センター)

対象者：新任教員、新たに大学の授業を担当する教員、参加を希望する教員

※ 四国地区教職員能力開発ネットワーク(SPOD) 全加盟校

### ①非同期型研修 研修期間：8月17日(月)～9月4日(金)

moodleによる非同期型研修を受講していただきます。

オンライン研修1：目標設定と授業計画、シラバスの書き方

オンライン研修2：コースデザインの考え方

オンライン研修3：様々な授業形態、それぞれのメリットとデメリット

オンライン研修4：成績評価、その目的と方法

研修課題(詳細はお申し込み後、ご連絡いたします)

1. 自分が担当するオンライン授業のシラバスを作成する。
2. 1の授業の1回分のオンライン授業を作る。
3. 2で作成した内容を高知大学moodleに登録する

①を受講のうえ、  
②の同期型研修  
にご参加ください。

### ②同期型研修 9月9日(水)10:00～17:00

Teamsによる同期型オンライン授業を経験します。

- ・アイスブレイク
- ・作成した授業に関するプレゼンテーション
- ・オフラインでのブラッシュアップとフィードバック
- ・意見交換／振り返り



#### 【申込方法】

8月5日(水)までに下記事項を記載のうえ、E-mailにてお申し込みください。

メール件名：「学生の学びを支援する授業準備ワークショップ」の参加申込み

本文：①氏名(ふりがな)②所属③職名④メールアドレス⑤電話番号

申込先：学務課総務係 ([y-spod@kochi-u.ac.jp](mailto:y-spod@kochi-u.ac.jp))

<本件に関するお問い合わせ先>

高知大学学務課総務係(SPOD担当)有澤、吉岡、矢野

TEL:088-844-8144 FAX:088-844-8367 E-mail:[y-spod@kochi-u.ac.jp](mailto:y-spod@kochi-u.ac.jp)

令和 2 年度香川大学新任教員研修会  
『第 11 回よりよい授業のための F D ワークショップ』実施要項

1. 目的

授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程をグループワーク形式で体験し、授業実践のために必要な能力を身につけることを目的とします。

2. 対象者

- ・香川大学
  - 1) 新任教員研修プログラム対象者
  - 2) その他参加を希望する教員
- ・SPOD加盟校  
参加を希望する教員（香川県内からの参加のみ可）

3. 日程

令和 2 年 9 月 14 日(月)～15 日(火) (2 日間)

(詳細は別紙日程表のとおり。)

4. 場所

香川大学幸町キャンパス 5 号館 2 階 522～526 講義室 (予定)  
(〒760-0016 香川県高松市幸町 1 番 1 号 電話 087-832-1153)

5. 費用

研修の参加費用は無料です。

\*SPOD 加盟校の旅費については、各大学・短大・高専でご負担願います。

6. 修了証書

研修修了者には、修了証書を授与します。

7. 主催

香川大学 大学教育基盤センター

8. その他

この研修会は、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）の研修プログラムとして、SPOD加盟校に開放し実施します。

研修会の事務については修学支援グループ及び給与福利グループが担当します。

## 日程表プログラム日程

### 1日目 9月14日(月)

8:45 までに香川大学幸町北キャンパス 正門付近に集合

(敬称略)

時刻	内容	講師・司会	場所
—8:45	集合, 到着後受付		
8:50—9:00	(1) オリエンテーション ・開会あいさつ ・研修の目的・目標の確認 ・スタッフ紹介とお願い		教育学部棟 5号館2階
9:00—9:30	(2) アイスブレイキング ・自己紹介 ・グループワーク	葛城 浩一	教育学部棟 5号館2階
9:30—10:10	(3) グループワークⅠ 「学生の考える良い授業」	西本 佳代	教育学部棟 5号館2階
10:10—10:20	休憩		
10:20—11:10	(4) 講義Ⅰ「シラバスの書き方」 ・目標設定の立て方 ・授業計画の立て方	葛城 浩一	教育学部棟 5号館2階
11:10—12:00	(5) グループワークⅡ「全学共通科目の開発Ⅰ」 ・目標設定 ・授業計画 ・シラバス作成	スタッフ全員	教育学部棟 5号館2階
12:00—13:00	昼食		
13:00—13:50	(6) 講義Ⅱ「学生参加型授業の技法」 ・アクティブラーニングとは ・学生参加型授業の技法紹介	西本 佳代	教育学部棟 5号館2階
13:50—14:00	休憩		

14:00－14:50	(7) 講義Ⅲ「よりよい学習評価のために」 ・成績評価の目的 ・評価の方法と評価対象	佐藤 慶太	教育学部棟 5号館2階
14:50－16:20	(8) グループワークⅢ「全学共通科目の開発Ⅱ」 ・授業計画と評価計画	スタッフ全員	教育学部棟 5号館2階
16:20－16:30	休憩		
16:30－17:50	(9) グループ発表Ⅰ「中間発表」 ・授業計画のプレゼン ・質疑応答	石井 知彦	教育学部棟 5号館2階

※例年懇親会を開催していましたが、今年度は中止します。

2日目 9月15日(火)

時刻	内容	講師・司会	場所
ー8:45	集合		教育学部棟 5号館2階
8:50ー9:00	ふりかえり		教育学部棟 5号館2階
9:00ー11:00	(10)グループワークⅣ「全学共通科目の開発Ⅲ」 ・授業計画案作成	スタッフ全員	教育学部棟 5号館2階
11:00ー12:00	(11)グループワークⅤ「共通教育科目の開発Ⅳ」 ・役割決定 ・授業の練習	スタッフ全員	教育学部棟 5号館2階
12:00ー13:00	昼食		
13:00ー15:00	(12)グループ発表Ⅱ「最終発表」 ・授業紹介 5分 ・ミニ授業 15分 ・討議・検討 10分	石井 知彦	教育学部棟 5号館2階
15:00ー15:30	(13)閉会式 ・グループ作業の振り返り(学んだことは何か?どう実践に活かすか?) ・修了証書授与 ・閉会の言葉	石井 知彦	教育学部棟 5号館2階
15:30ー	写真撮影後解散		

# SDコーディネーター (SDC) 養成講座

オンライン開催



2020年10月23日(金)～24日(土)

参加費  
2,000円

対象 SDを担当する教職員, SDコーディネーターに関心のある教職員

※2日間全プログラムの参加が可能でインターネット接続や参加者同士の対話に支障のない環境で参加できる教職員の方に限ります。

## お申し込み

7月22日(水) 正午～9月9日(水) 正午

先着18名

- ▶ 定員人数に到達次第, 募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後, 確認メールを送信します。いただいた情報は, 本講座以外に使用することはありません。
- ▶ 参加費の支払い方法について  
研修終了後(11月中)に, 申込み時にフォームへ記載いただいた「振込用紙送付先」へ振込用紙をお送りします。届きましたら, 期限までにお支払いください。

お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>

## 実施目的

職員の能力開発(SD)の実践的指導者(SDコーディネーター/SDC)になるため, その役割や求められる能力を理解し, 実際のSD推進に活用できる具体的手法を身につけることを目的としています

## 到達目標

1. 人材育成ビジョンの必要性を説明することができる
2. 自大学における人材育成ビジョンを策定するために, その構築手法を修得することができる
3. 自らのキャリアを開発するために, スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる
4. 職員のキャリア開発を支援するために, メンタリングを行うことができる
5. SDの実践力を身につけるために, SDプログラムを企画・運営・評価することができる
6. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し, 共に学び合う雰囲気をつくること

## 講師

- 小林直人 (愛媛大学 学長特別補佐／教育・学生支援機構教育企画室長 教授)  
中井俊樹 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 副室長 教授 SDC)  
竹中喜一 (愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 講師 SDC)  
吉田一恵 (愛媛大学 愛媛大学SD統括コーディネーター／能力開発室長 SDC)  
横山浩一 (青森中央学院大学 総務課 リーダー)  
山浦久美子 (愛媛大学 総務部人事課人事・人材育成チーム チームリーダー)  
進藤千晶 (愛媛大学 教育学生支援部教育企画課教育企画チーム サブリーダー)

## スケジュール

### 1日目

- 8:30 受付・接続確認  
9:00 オープニング  
9:30 オリエンテーション  
SD, SDCについて理解する [竹 中]  
10:00 人材育成ビジョンの必要性について理解する [吉 田]  
10:40 組織の人材育成ビジョン作成ワークショップ [吉 田]  
(うち, 1時間休憩)  
14:10 SP, メンタリングの導入事例及び  
その有効性について [山浦・進藤]  
15:30 メンタリングを実践する [横 山]  
16:40 演習: SDの企画案の共有 [全講師]  
17:30 終了

### 2日目

- 9:00 SDプログラムを企画・運営する [竹 中]  
10:30 SDプログラムを評価する [竹 中]  
11:30 演習: SDの企画案の個別相談と修正 [全講師]  
(うち, 1時間休憩)  
15:30 演習: SDの企画案(修正版)の共有 [全講師]  
16:30 振り返り  
16:55 クロージング  
17:00 終了

## 事前課題

- 1 **スタッフ・ポートフォリオの作成**  
\* 受付完了後, 様式をお送りします。
- 2 **自大学で実施しているSDについて, 新たに企画したいものや現状の改善を図りたいものを考えるワークシートの提出**  
\* 受付完了後, 様式をお送りします。  
\* 当日, ワークシートの内容について3分程度で発表いただきます。
- 3 **SDに関する論考の閲覧**  
\* 受付完了後, 論考をお送りします。  
\* 当日までに閲覧してください。

▶ 提出期限: 10月5日(月)

▶ 提出先: [kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp)

## お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課

TEL: 089-927-9154

mail: [kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp](mailto:kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp)

## 教職員能力開発拠点

(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)

本事業の目的は、全国の大学教職員能力開発の質向上に寄与することにあります。第3期(令和2年度～6年度)は、第1期～第2期(平成22年度～令和元年度)までの取組をさらに発展させ、研修プログラムの提供による個々の教職員の能力開発支援だけでなく、教育改善に関する専門家・指導者の養成や本拠点が開発したFD/SDモデルの提供などを通じ、全国の大学のカリキュラム、制度、リーダーシップ等の改善に向けた支援、すなわち「組織開発(OD: Organizational Development)」支援に取り組み、各組織における自律的な教育改善の促進を目指します。この目的を達成するため、「①専門家・指導者養成と支援, ②FD/SDモデルの構築と普及, ③FD/SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働」の3つの取組を重点項目として位置づけています。